



■敦賀副市長 塚本 勝典

敦賀市の副市長の塚本でございます。少し敦賀市の説明をさせていただきます。ビジュアルのほうがいいかなと思ひまして、パワーポイントを用意させていただきました。先ほどの総会で、敦賀を来年の交流ネットワークの開催地と決めていただきましたので、来年は心からお待ちしております。よろしくお願ひします。

敦賀というところは人口約7万弱です。日本列島のほぼ中央にございまして、日本海側の韓国、中国、ロシア、あるいは背後地の名古屋、大阪まではJRで1時間半ぐらいの距離にあります。この紫色は高速道路でございすけれども、舞鶴若狭自動車道が今年の7月に全線開通いたしまして、ミッシングリンクが解消されました。まさに北陸道と関西が若狭湾を通じてつながったところでございます。

これは先ほどの総会のお話の時にもお話をさせていただいたんですが、敦賀は港としての歴史が古くて、今1940年ごろの敦賀港の写真が出ております。欧州アジア国際連絡列車というのが1902年ぐらいに走っておりまして、東京の新橋から敦賀の金ヶ崎という港の駅をつなぎ、そして敦賀港からウラジオストク、モスクワ、レニングラード、ヨーロッ

パと、このように欧州アジア国際連絡列車が走っておりました。与謝野晶子が鉄幹を求めてヨーロッパへ旅立ったのも、この敦賀の地でございます。これが実はその次に説明します、人道の港につながっていくわけでございます。

これは、テレビとか映画あるいはいろいろな関係で報道されておりますのでご存じの方もあろうかと思えますけれども、人道の港敦賀という歴史があるわけでございます。第二次世界大戦中、リトアニアの領事でありました杉原千畝という方がございました。当時、ナチスの迫害からユダヤ人の方々が逃れようとしていたんですけれども、何分ビザがないということで、杉原千畝は外務省の訓令違反を犯してまで敦賀経由というビザを書きました。その結果、6,000人のユダヤ人難民の方々が救われたわけでございます。船に乗って敦賀港が見えた、敦賀の地を踏んだとたんに「ここは天国、ヘブんだ」というようなことを言われたようでございます。当時、敦賀市民の方はリンゴをお分けしたり、お風呂を用意して皆さんに浴びていただいたという逸話が残っているところでございます。

そういうことで、敦賀は人道の港ということをPRしておりますけれども、杉原千畝さんが生まれたところは岐阜県の八百津町です。ここにもそういった資料館がございまして、連携をとりながら、今こういった歴史的な事実を皆さんにPRしているところです。特に、今年の夏に6,000人のユダヤの方々のうちの1人、レオ・メラメドさんという方が、大分高齢でございますけれども、73年ぶりに敦賀の地を訪れました。マスコミ等で取り上げられておりますけれども、この方はシカゴの先物取引で経済的に非常に成功をおさめた方でございます。敦賀の港に立って、当時を振り返っていた様子が印象的でした。

敦賀の地では、そういう歴史的な事実も観光資源として活用しようということで、クルーズを用意しております。定期的に敦賀とウラジオストクを結びながら、ここに書いてあります命を長らえた子孫の方々、あるいは杉原ミチさんという息子さんのお嫁さんの方にご講演をいただいたり、左下にお菓子がありまして、ルガラーというユダヤ人の伝統のお菓子を敦賀の地で発売しております。ちょっと見にくいですが、右側が命のビザのレプリカでございます。こういった敦賀ならではのことをクルーズに織り込んでいるところでございます。

最後になりますけれども、港周辺には赤レンガがございます。左上でございますけれども、ここには来年の10月に公開予定の、日本トップクラスのJRの鉄道ジオラマを建設中でございます。右のほうは、これも先ほど申し上げたんですけれども、敦賀というのは

戦争で非常に壊滅的な空襲を受けました。そういった中で唯一残っている通りがございます。そして、ここの町屋再生を目指しております。

それから、左下は唐津の虹の松原と並ぶ気比の松原で、三大松原の一つでございます。それから、敦賀の地は港でございますので、魚が非常においしゅうございます。特に越前ガニ、敦賀フグ、ぜひご賞味いただきたいと思いますが、残念ながら、11月6日がカニの解禁でございますので、来年の10月ではちょっと早いんですけども、また機会があればぜひご賞味いただきたいと思います。限られた時間ではございますが、ご紹介させていただきました。ありがとうございます。